

「感謝、安全第一」「心を込めて」

応援メッセージ交換

市立釧路病院建設 作業員「励みに」

新棟建設が進む市立釧路総合病院（森田研院長）で、工事作業員に向けた応援メッセージが、関係者の間で話題になっている。メッセージは、建設現場に面した窓に掲示。建設現場からは、病院側に向けた応答メッセージが設置された。緊張感のある工事現場の闘いの中での心温まるメッセージのやり取りは、現場で働く人たちの励みとなっている。



病院北側の窓には「感謝」（右）と「安全第一」（左）のメッセージ



工事現場中央に置かれた手作りメッセージ

新棟建設は、実施設計と施工を一括した発注（DB）方式を採用し、戸田・村井・葵・宮脇・萬木特定建設工事共同企業体

（特定JV）が担当。昨年11月に本工事が始まり、現在は約80人で基礎部分の工事が行われている。最初のメッセージは6月下旬、看護師らが同病院2階北側の窓に、1文字が縦70字、横60字で「感謝」の言葉を貼り出した。発案者の一人、鏡美幸看護次長（58）は「連日暑い中、頑張っている姿を見て感謝を伝えたくて作った」と話す。

書き上げ、7月5日、病院に向け現場中央に設置した。安部博明統括責任者（63）は「このような経験は初めてで感激した」、文字を書いた及川智秋現場代理人（47）は「作業員たちの励みになった。文字書きは緊張したが気持ちを込めた」と振り返る。

思わぬ返答に病院側は3階窓に絵文字と共に「安全第一」と再メッセージ。鏡美次長は「返事を見てますます応援したくなった。けがなく完成させてほしい」と願いを込める。

工事は今後、600人以上が携わり本格化する。メッセージの交換は今後も続きそうだ。

（河辺由紀子）

同JVでは作業員らがすぐに気付く、朝礼でも話題に。返答しようと長さ7・2m、高さ0・9mのベニヤ板を白く塗った上に「心」を込めてお届けします」と毛筆で